

フリガナ		所属	大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程 理学専攻
氏名	N H		情報科学コース 1 年
派遣先名 （国名）	バーギシェ・ブッパタール大学（ドイツ）		
派遣期間	（日本出発日） 2023 年 10 月 3 日		（日本到着日） 2024 年 2 月 12 日
指導教員 氏名	小口 正人		印

留学前、留学後で変化したこと

ヴッパタール大学での学生との交流を通して、私の学業に対する意識が変化しました。日本とは異なり、多くの学部生が 2 つのコースを同時に専攻していました。その分授業数や課題も多いため平日は多くの時間を学習に費やし、週末は友人と過ごす時間を楽しむというメリハリをつけている学生が多い印象を持ちました。図書館や空き教室で友人らと勉強している学生も多くいました。一緒に勉強をする仲間を見つけるためのイベントがあり、私も実際に参加して友達を作りました。ドイツでは、就職活動の際には大学の知名度や評判よりも専門性や実務経験、何を学んできたかが重要視されると聞きました。理系の分野の場合、修士にとどまらず博士まで進み学問を極めることも多いそうです。ヴッパタール大学の学生は、自らの学びに対して明確な目的や将来のビジョンを持っており、目標に向かって努力しているその姿勢から私も多くのことを学びました。

また、その土地の言語を学ぶことの大切さを改めて感じました。留学生向けのイベントに多く参加しましたが、多くの留学生がドイツ語を流暢に話しており、ドイツ語を話せない私に合わせて英語を使ってもらうこともありました。母国語と英語、ドイツ語以外の言語を話せる学生も多くいました。鉄道のアナウンスや電話で問い合わせる際の音声ガイダンスなど、日常生活の中でもドイツ語が必要な場面が予想以上に多く、英語ができる人に助けを求めるときもしばしばありました。一方で、駅や車内アナウンスのリスニングを練習したことで、遅延や運休、プラットフォームの変更が多発するドイツ鉄道とも上手く付き合えるようになったり、街で話しかけられた際にドイツ語で返事をしたことで会話が弾んだ経験もありました。留学当初は慣れないドイツ語を使うことに抵抗がありましたが、勇気を出してドイツ語で話すことで人々との距離が縮まり少し生活しやすくなったように感じました。旅行であれば英語で事足りるかもしれませんが、不測の事態に対応したり、現地に溶け込み人々と深い関係を築くためには、その土地の言語を知っていることが重要だと思いました。同時に、来日する外国の人々は私がドイツで経験した以上に困難が多いただろうと感じました。親切に私を助けてくれた多くのドイツ人のように、私も手を差し伸べられるようになりたいと思います。

さらに、ドイツで暮らしたりヨーロッパの各地を訪れる中で、世界の歴史や文化、芸術への興味が新たに湧きました。歴史的・宗教的な背景を知ることでドイツ人の国民性や生活スタイルとの繋がりが少しずつ見えてきて、非常に興味深くもっと長い時間をかけて理解を深めたいと感じました。

将来のビジョン

これからは、就職活動が本格的に始まり、修士論文に向けた研究活動にも取り組みます。ヴッパタール大学で履修した科目の中には自らの研究に直接関係するような内容もあるため、この留学で得た新たな技術や知識を活かして研究をより良いものにしていきたいです。博士前期課程修了後は就職する予定です。言語や文化が異なる環境で生活する中で得た問題解決力や忍耐力、多様性への理解、語学スキルなどは、今後のキャリアで重要な役割を果たすと考えています。さらに、海外に身を置いて暮らすことで日本の



良さや課題に気づき、また、他の国の人々と交流することの楽しさも改めて感じました。将来の進路はまだ明確には定まっていませんが、国際的な視点を意識しながら社会に貢献できるよう努力していきたいと思います。